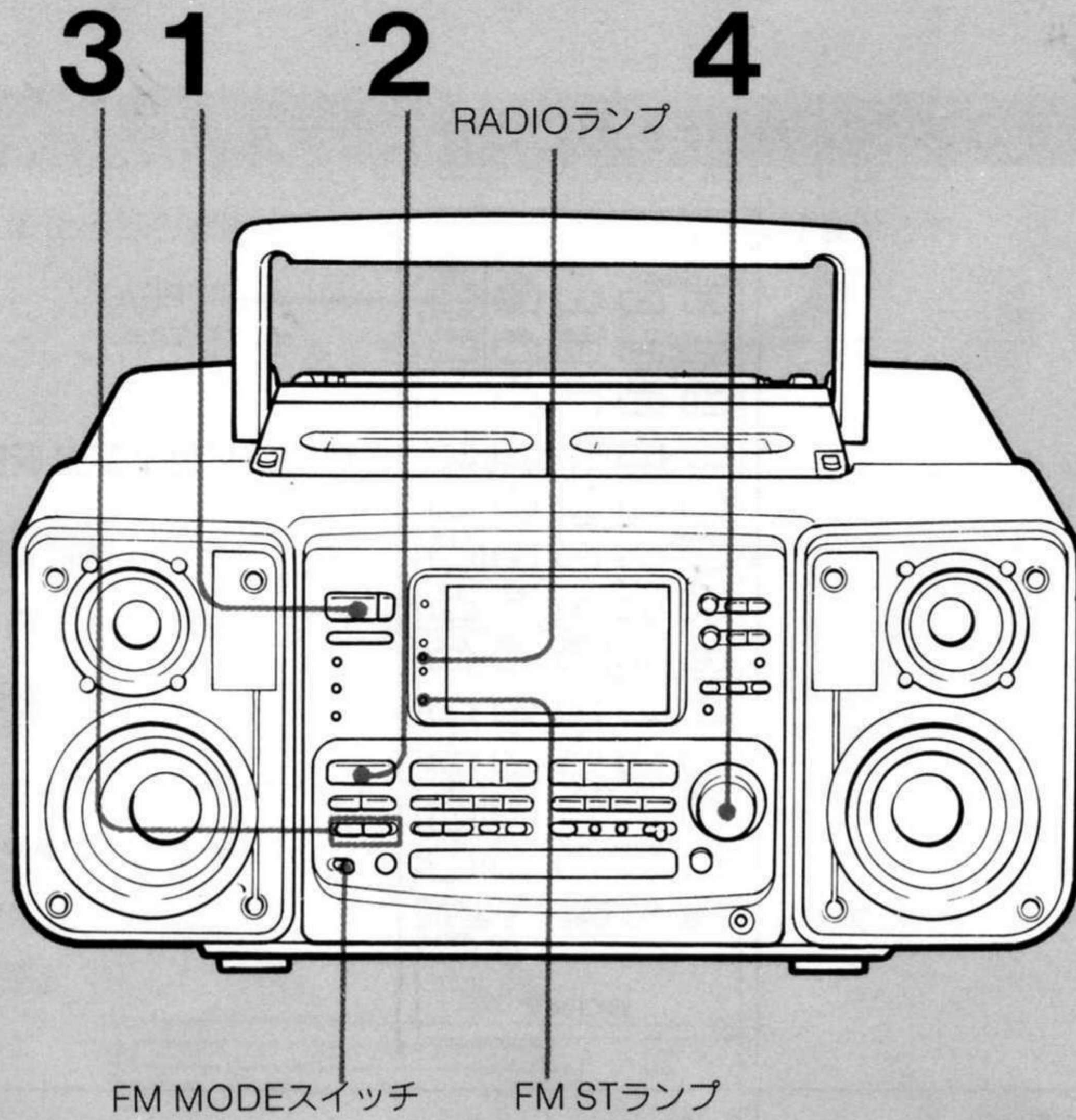
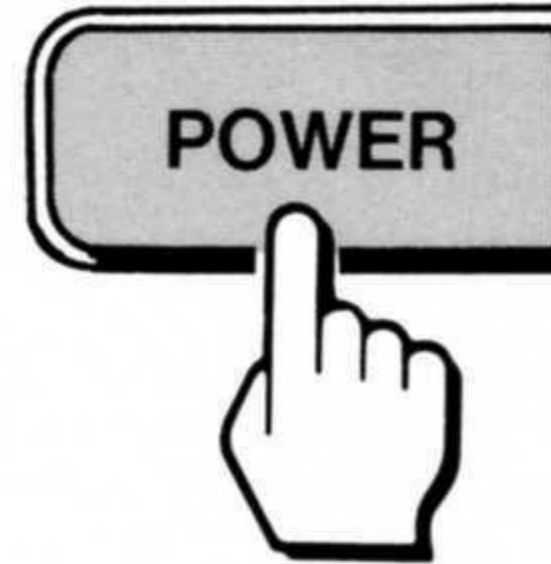


# ラジオを聞くには

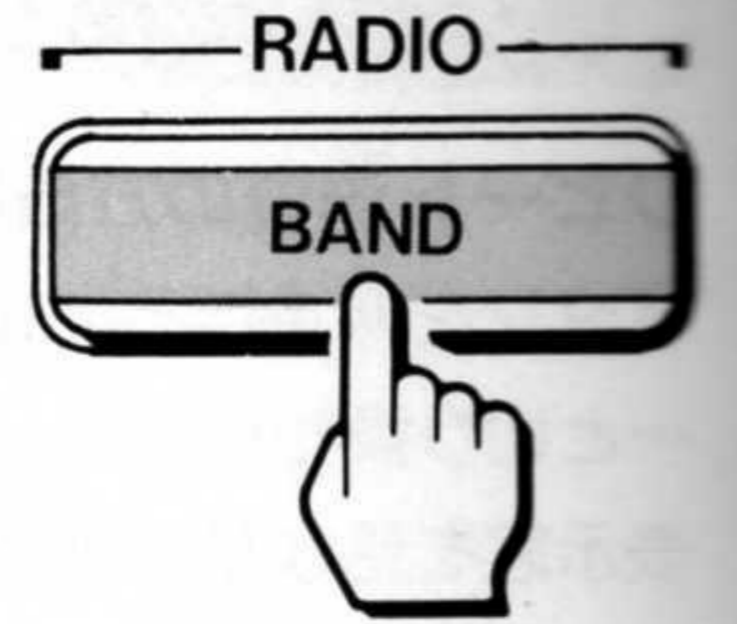
付属のリモコンを使って操作することもできます。



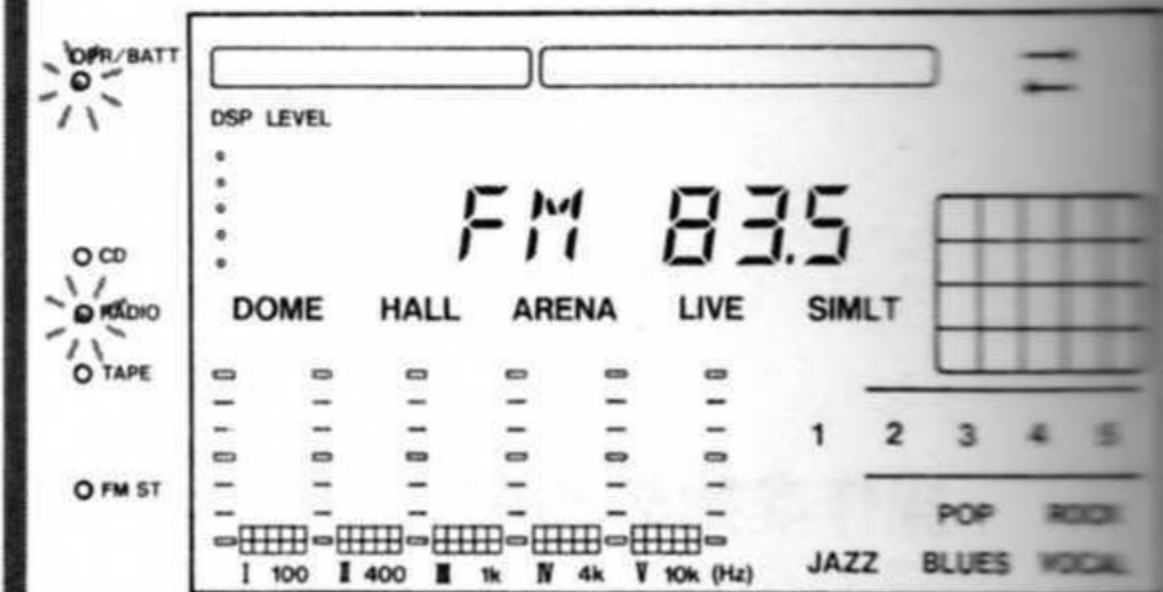
## 1 電源を入れる



## 2 聞きたい放送を選ぶ



RADIOランプが点灯します。



ボタンを押すごとにバンドが切り換わります。

聞きたい放送	表示窓
FM(TV1~3CH)放送	FM
AM放送	AM

### FMのステレオ放送を受信すると

FM STランプが点灯します。このとき、FM MODEスイッチを「MONO」の位置にすると、ランプは消灯します。

バンド	放送	スピーカーやヘッドホンから聞こえる音	スイッチの位置
FM	ステレオ	ステレオ	ST
		モノラル	MONO

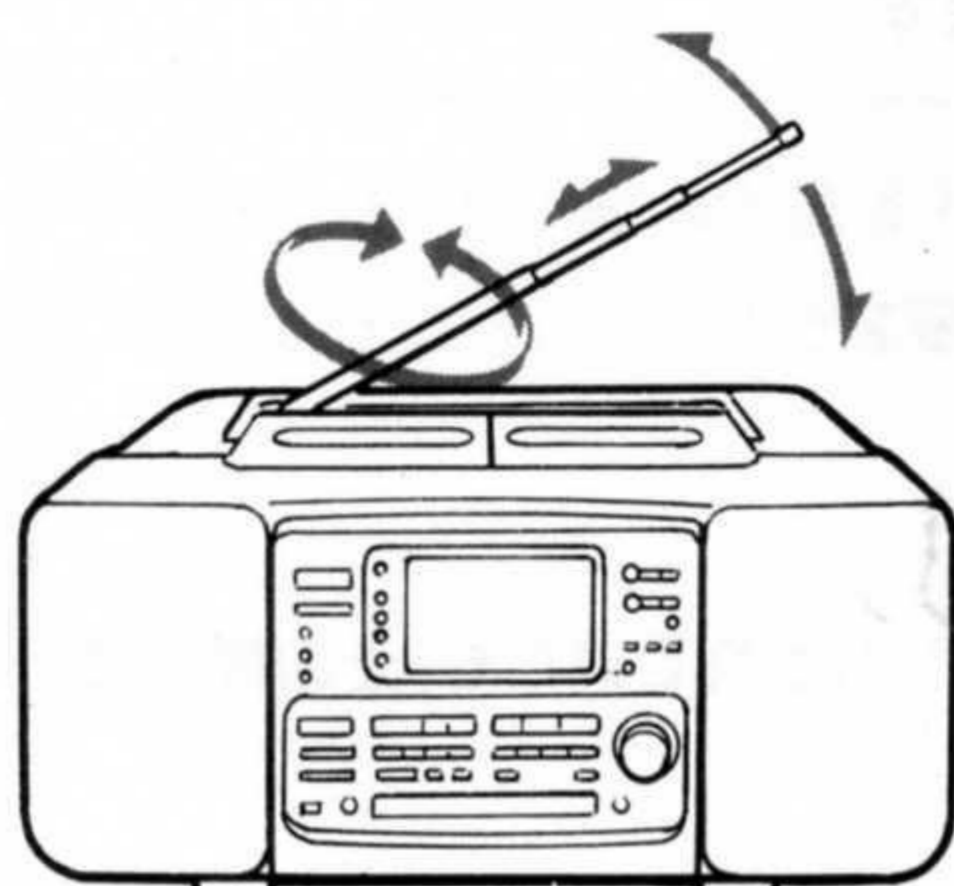
### FMのステレオ放送が雑音が多くて聞き取りにくいときは

FM MODEスイッチを「MONO」の位置にします。

ステレオ効果はなくなりますが、聞きやすくなります。

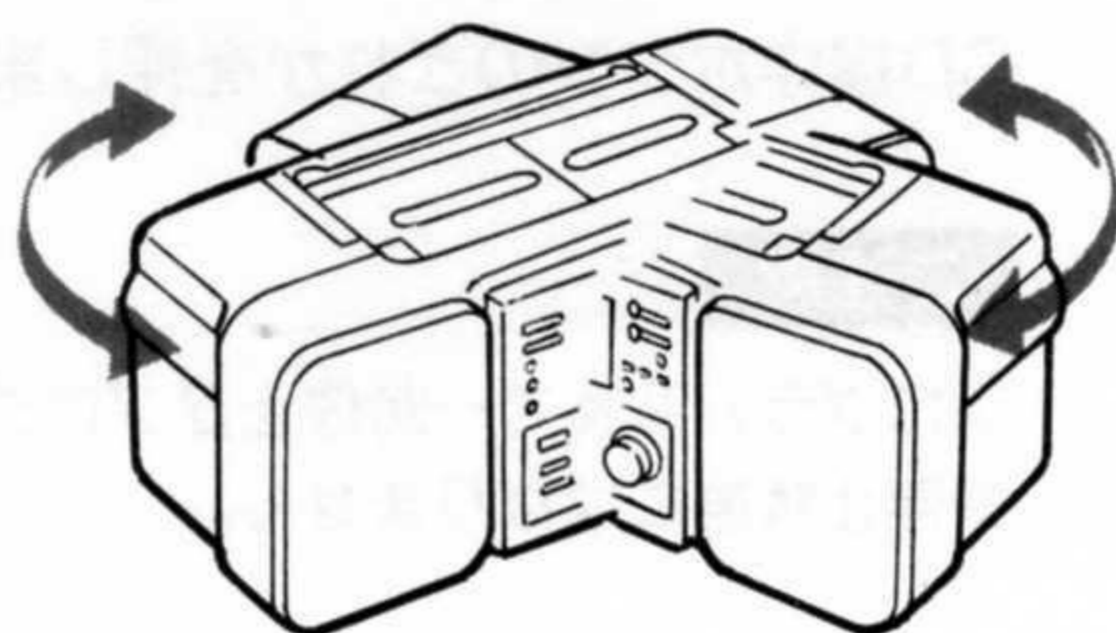
### 受信状態を良くするには

#### FM(TV1~3CH)放送を聞くとき



#### AM放送を聞くとき

アンテナは本体に内蔵されているので本体自体を動かします。

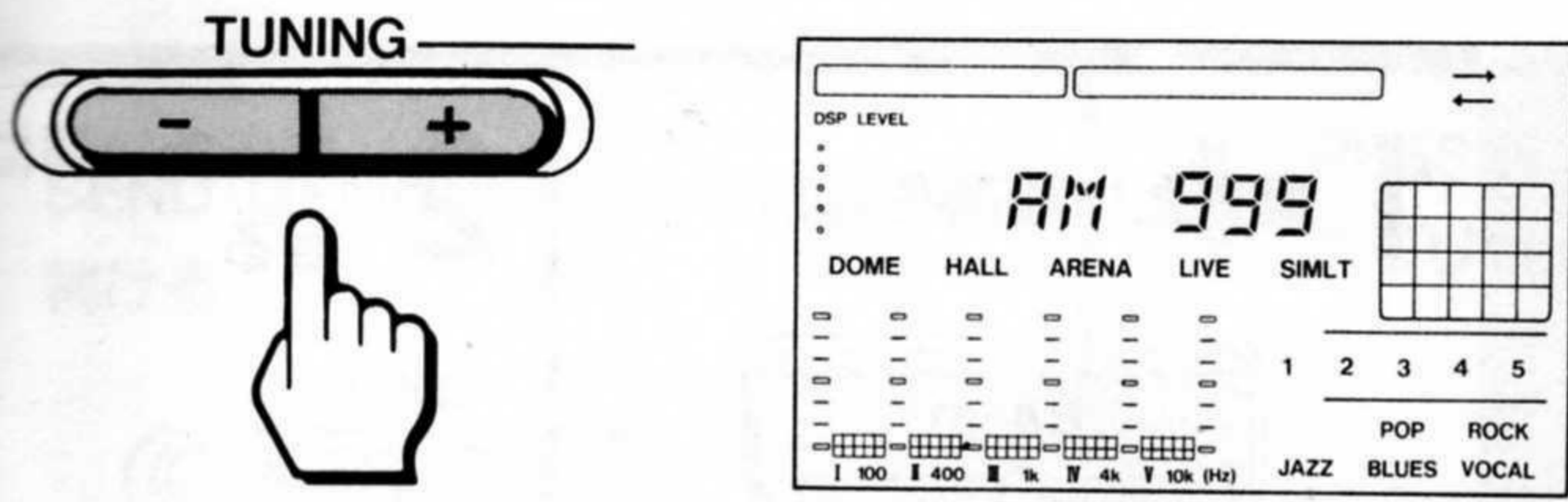


### ご注意

- ・テレビの近くでAM放送を受信すると、AM放送に雑音が入ることがあります。また、室内アンテナを使用しているテレビの近くで、本機でFM放送を聞くと、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは、本機をテレビから離してください。
- AM放送受信時にリモコン操作すると雑音が入ることがあります。

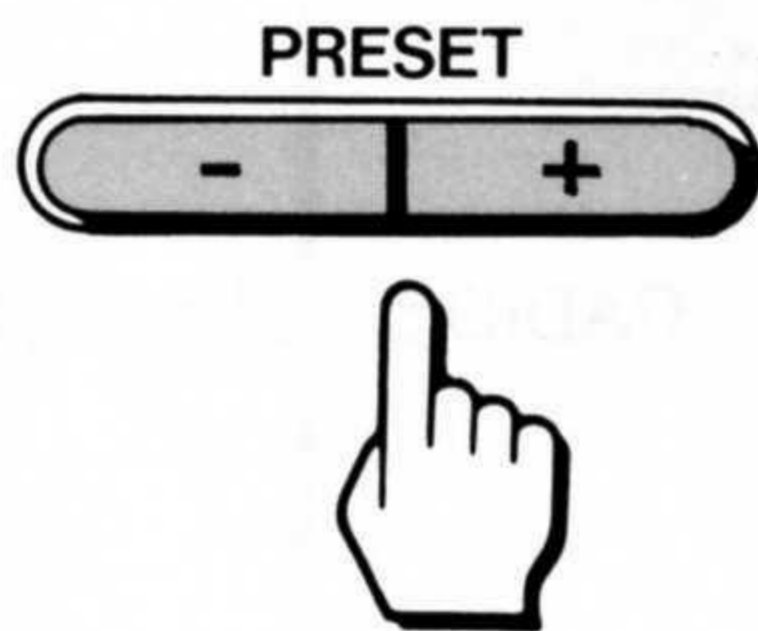
### 3 聞きたい局に合わせる

#### 方法1



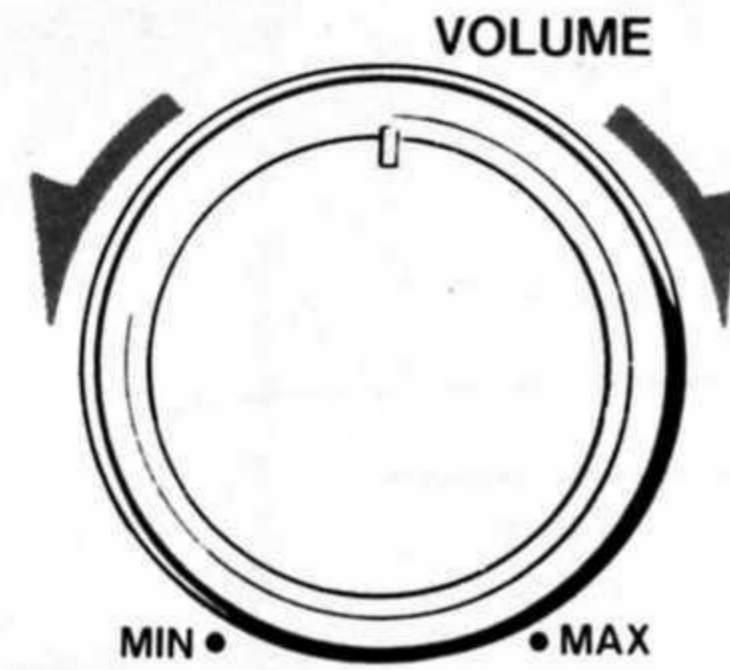
#### 方法2

「プリセットチューニング\*」  
してあるときは



\*「プリセット・チューニング」  
については30ページ参照。

### 4 音量を調節する



聞き終わったら  
POWERボタンを押して  
電源を切ってください。

ラジオを聞くには

#### 自動選局 (Auto Scan) について

TUNINGボタンを押し続けて、数字が動き始めたら手を離すと、受信状態のよい放送局を自動的に選んで止まります。

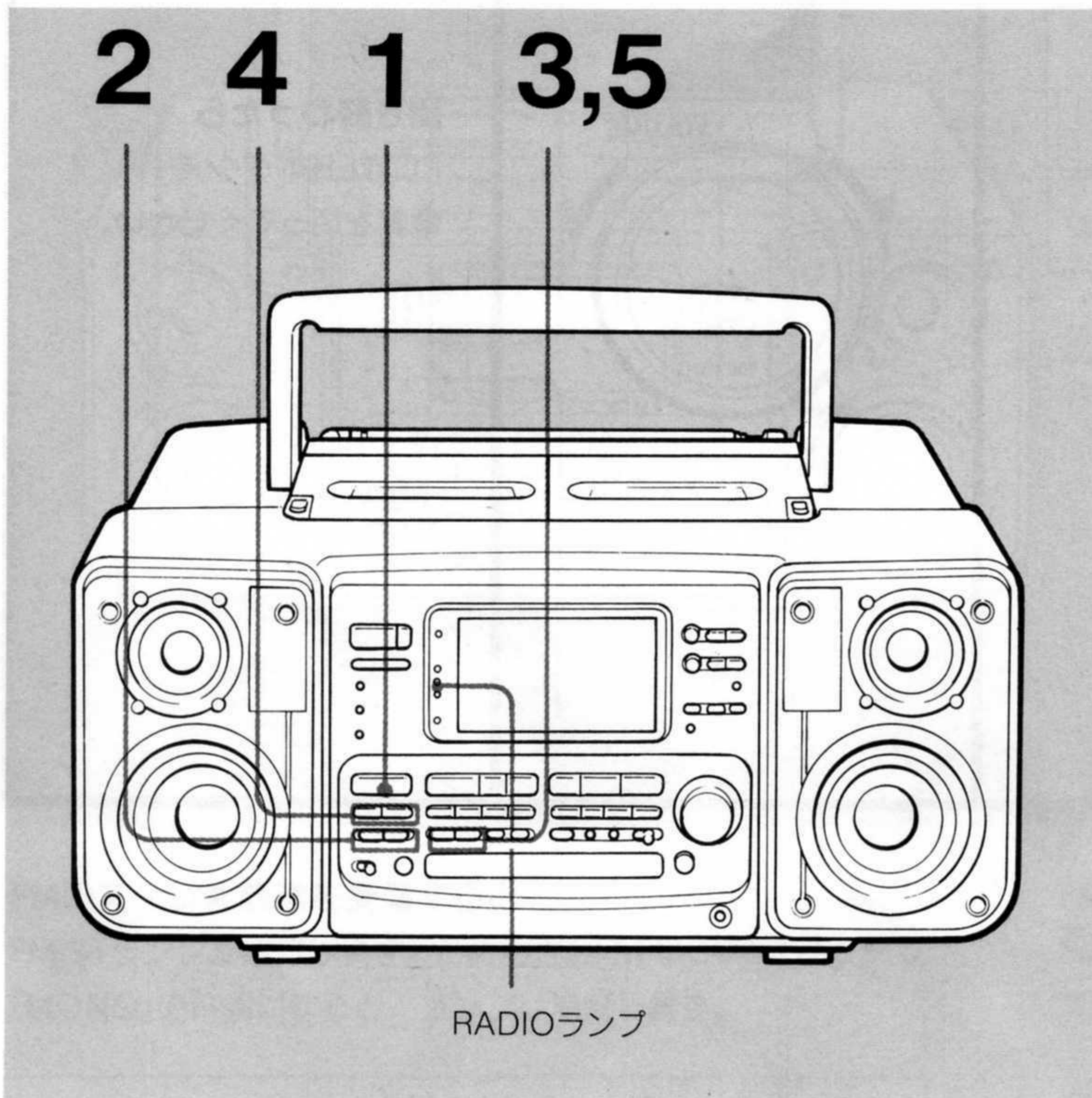
#### よりよいチューニング状態でお楽しみいただくために

お聞きになりたい局の周波数は念のため、新聞などの番組欄でお確かめになることをおすすめします。

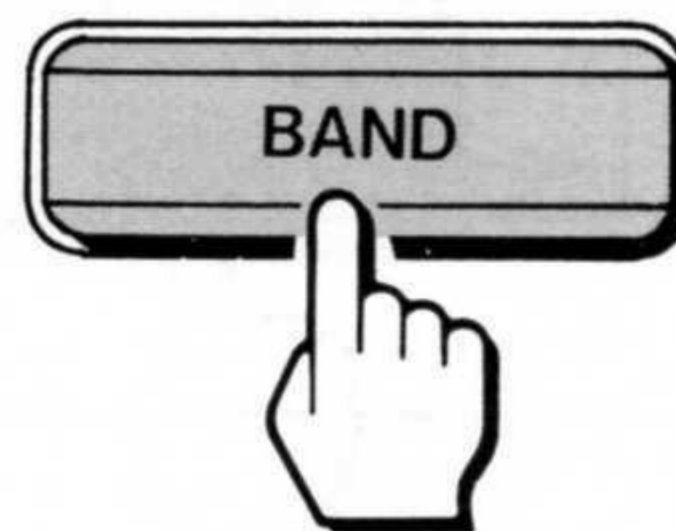
- FMバンド受信時、放送のない周波数またはごく弱い放送を受信すると、FM STランプが点灯することがありますが、故障ではありません。その際には、FM MODEスイッチを「MONO」の位置にしてお聞きください。
- このラジオ（チューナー）のテレビ音声回路はFM放送の受信回路と兼用になっています。このため一部の地域ではテレビ2、または3チャンネルの音声を受信中、FM放送が混じって聞こえることがあります。その場合にはお近くのサービス窓口にご相談ください。

放送局を覚えさせるには (プリセット・チューニング)

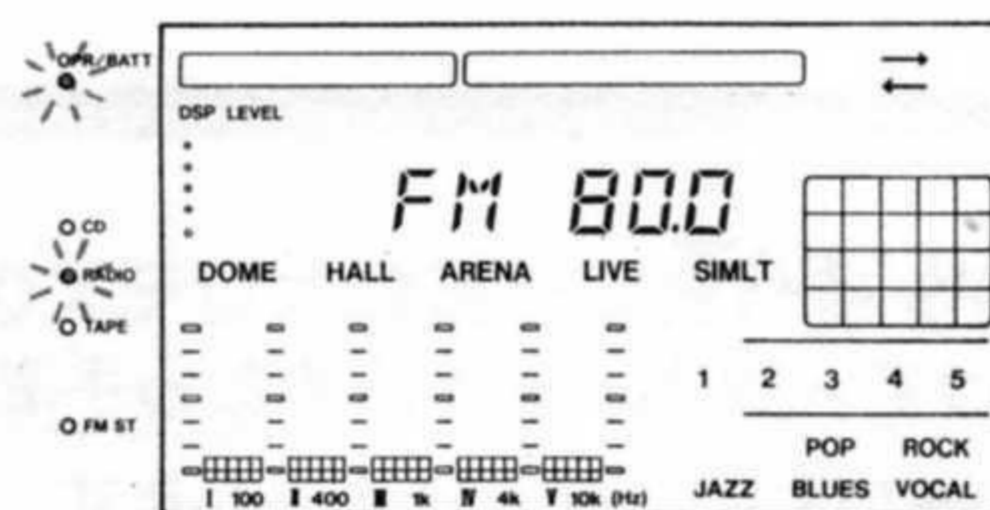
周波数をいったん覚えさせて(メモリーさせて)おけば、PRESETボタンの-/+ (リモコンでは数字ボタン) を押すだけで正確な受信ができます。



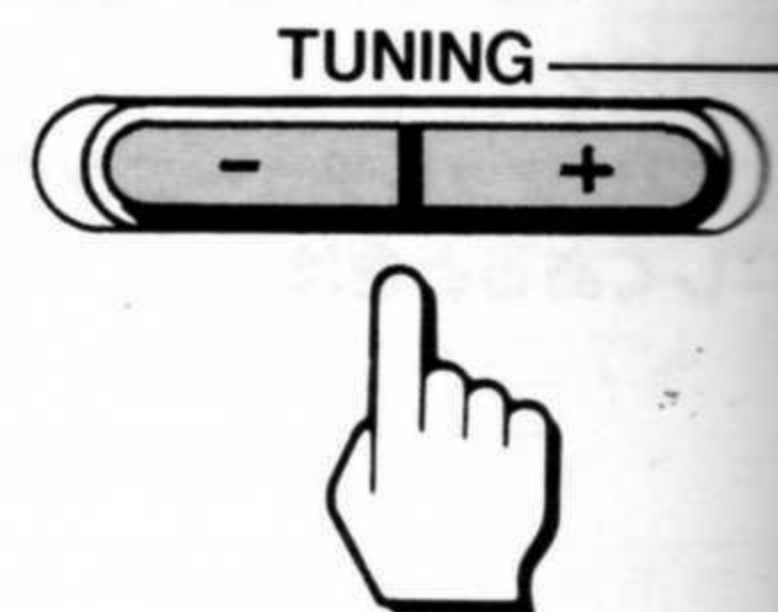
1 聞きたい放送を選ぶ



RADIOランプが点灯します。



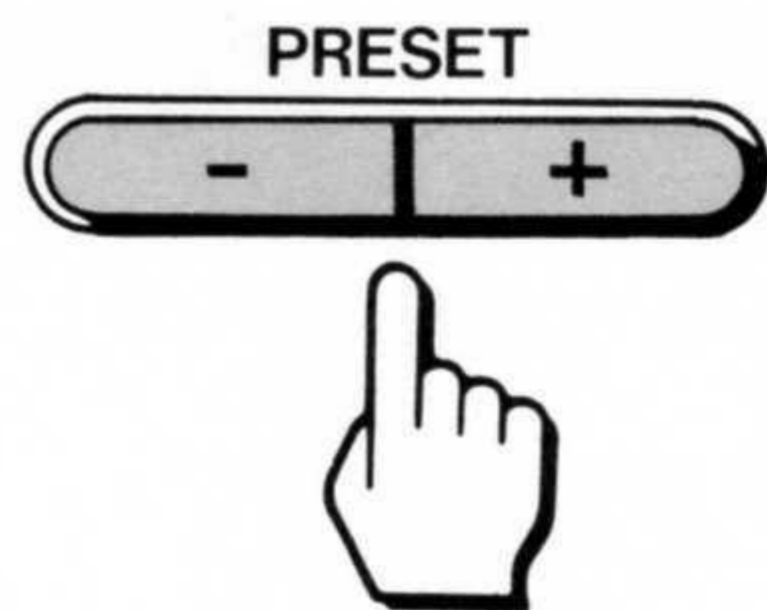
2 聞きたい局に合わせる



覚えさせた(メモリーさせた)局を聞くには

本体

PRESETボタンの-/+を押して希望のPRESET番号を選ぶ。



リモコン

1~9のプリセット番号の局を聞くには  
希望のプリセット番号(数字ボタン)を押す。

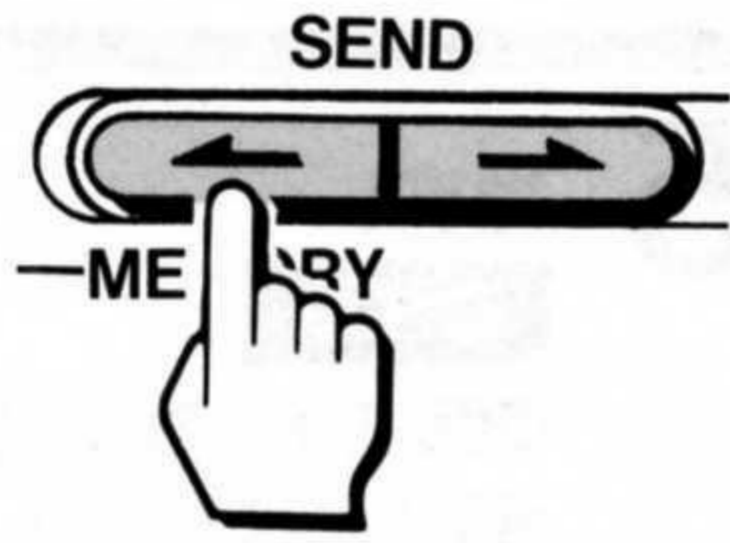
10~12のプリセット番号の局を聞くには  
1 +10を押す。



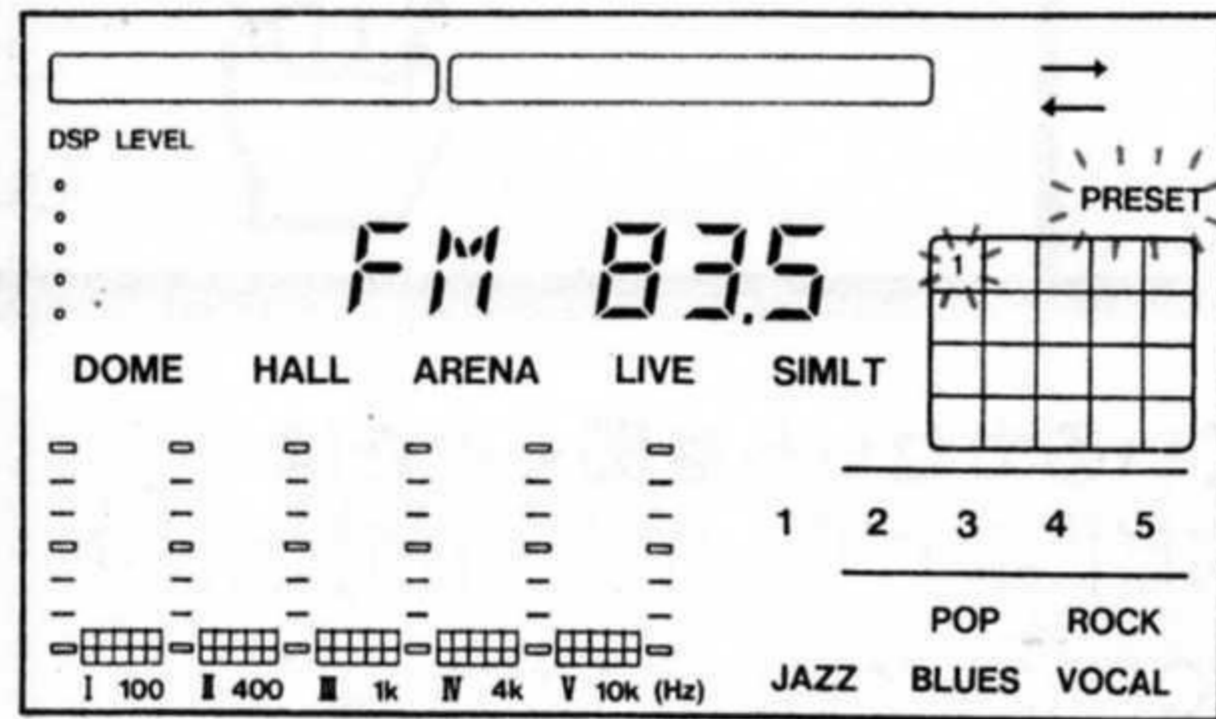
ミュージックカレンダーに10、11、12の表示が点滅する

2 10番を聞きたいときは0 } を押す。  
11番を聞きたいときは1 }  
12番を聞きたいときは2 }

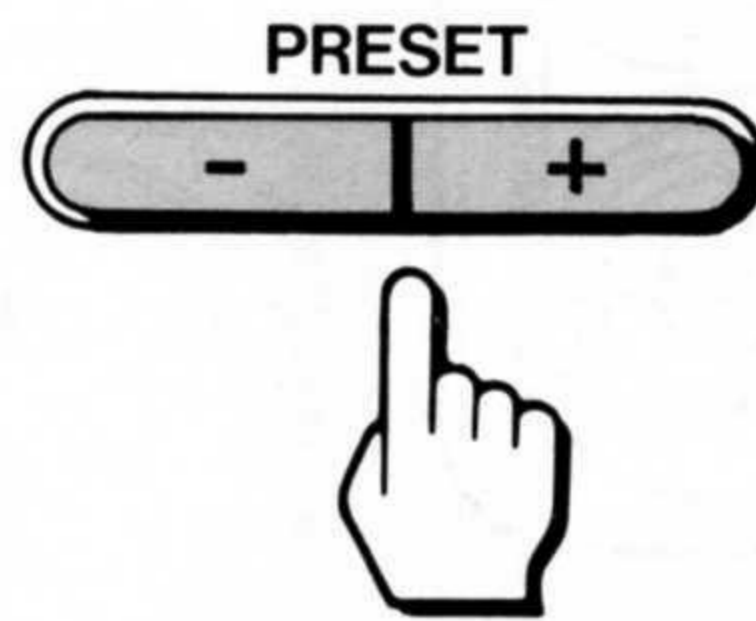
**3** SEND/MEMORYボタンを数秒間押し続ける



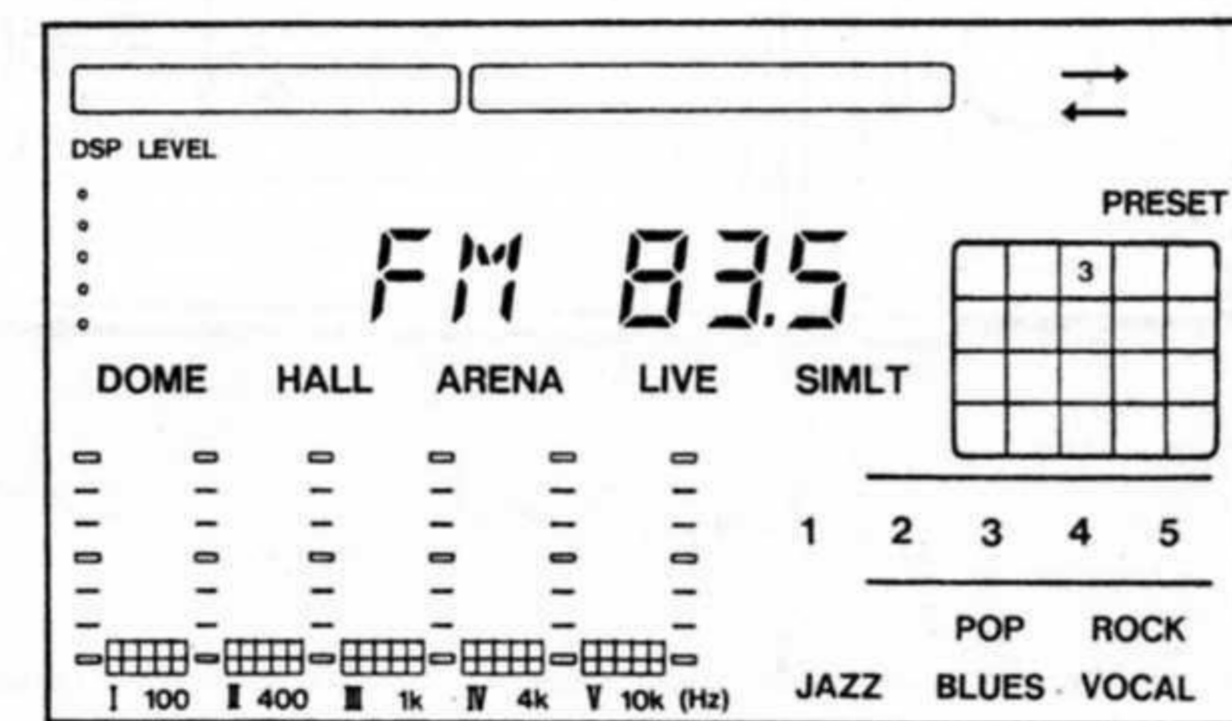
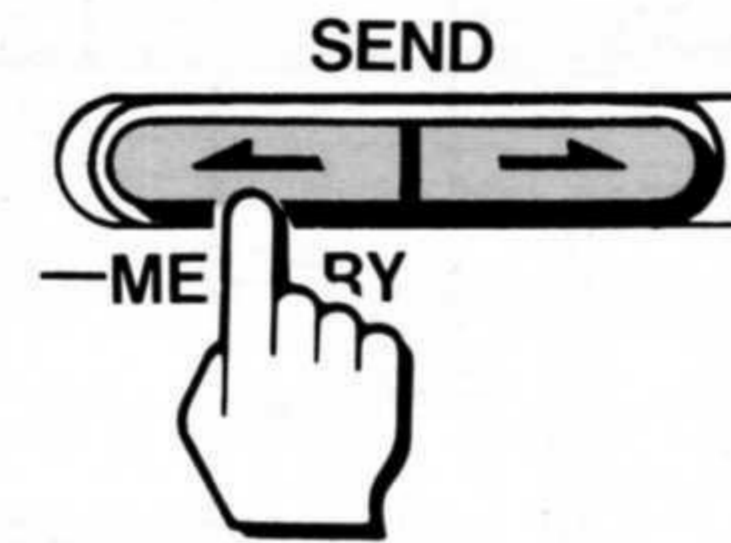
「PRESET」表示とミュージックカレンダー内の数字が点滅します。



**4** PRESETボタンで希望のプリセット番号を選ぶ



**5** SEND/MEMORYボタンを押す



ミュージックカレンダーにPRESET番号が表示されます。

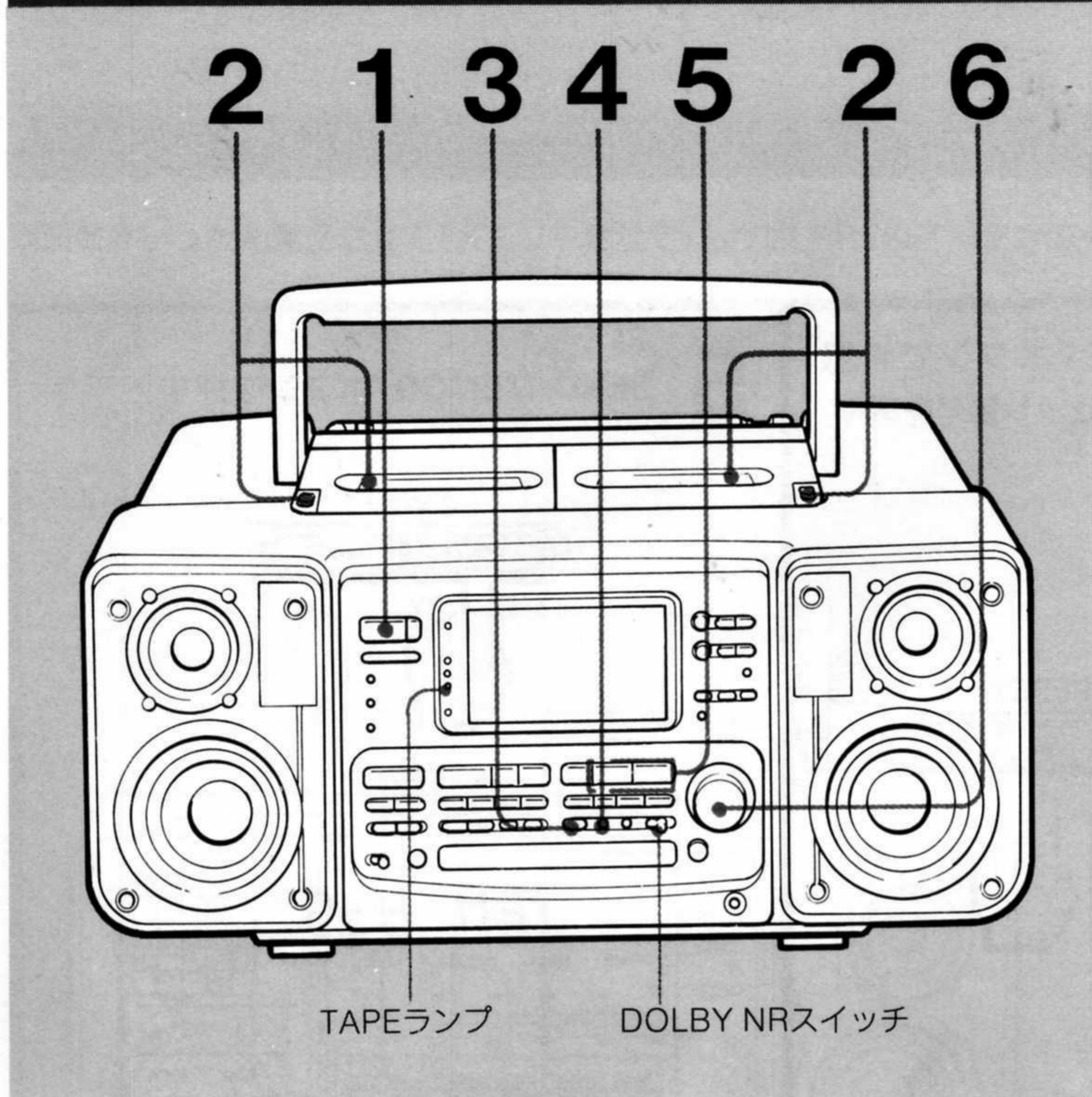
ラジオを聞くには

**放送局の記憶(メモリー)について**

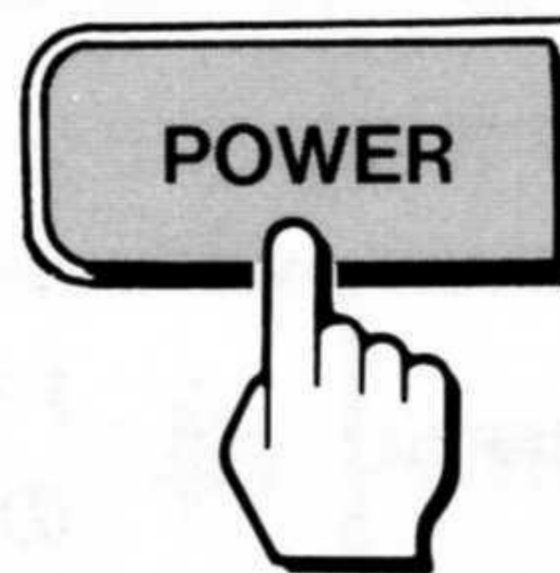
- ・FM(TV1~3CH)/AMの各バンド12局ずつ(合計24局)覚えさせることができます。
- ・1度覚えさせた番号に同じバンドの別の放送局を覚えさせると、前の局は消えます。  
新しい局を覚えさせずに前の局を消すことはできません。

# テープを聞くには

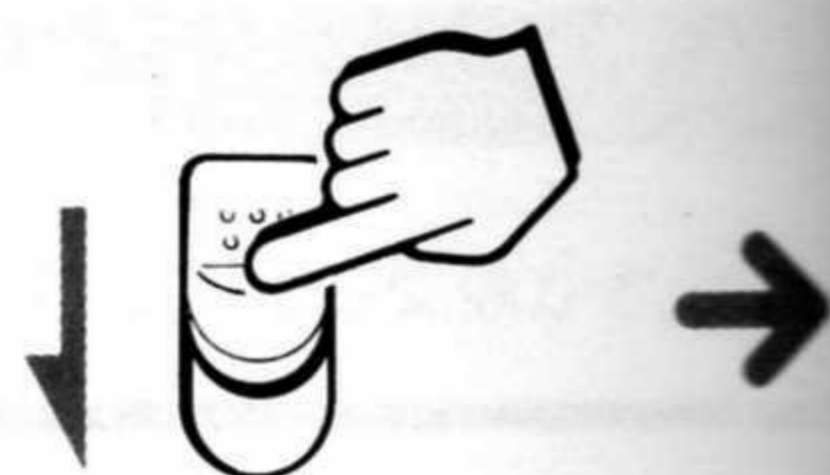
デッキA、Bの両方が使えます。  
デッキAは再生専用です。



## 1 電源を入れる



## 2



デッキAまたはB

## 4 DIR MODEボタンを押して、テープ走行モードを選ぶ (下記参照)

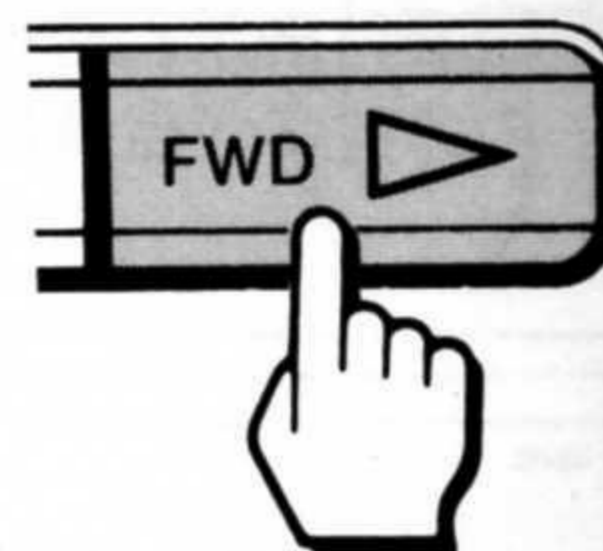


## 5 押す

**ご注意**

REC表示が消えていることを確認してください。

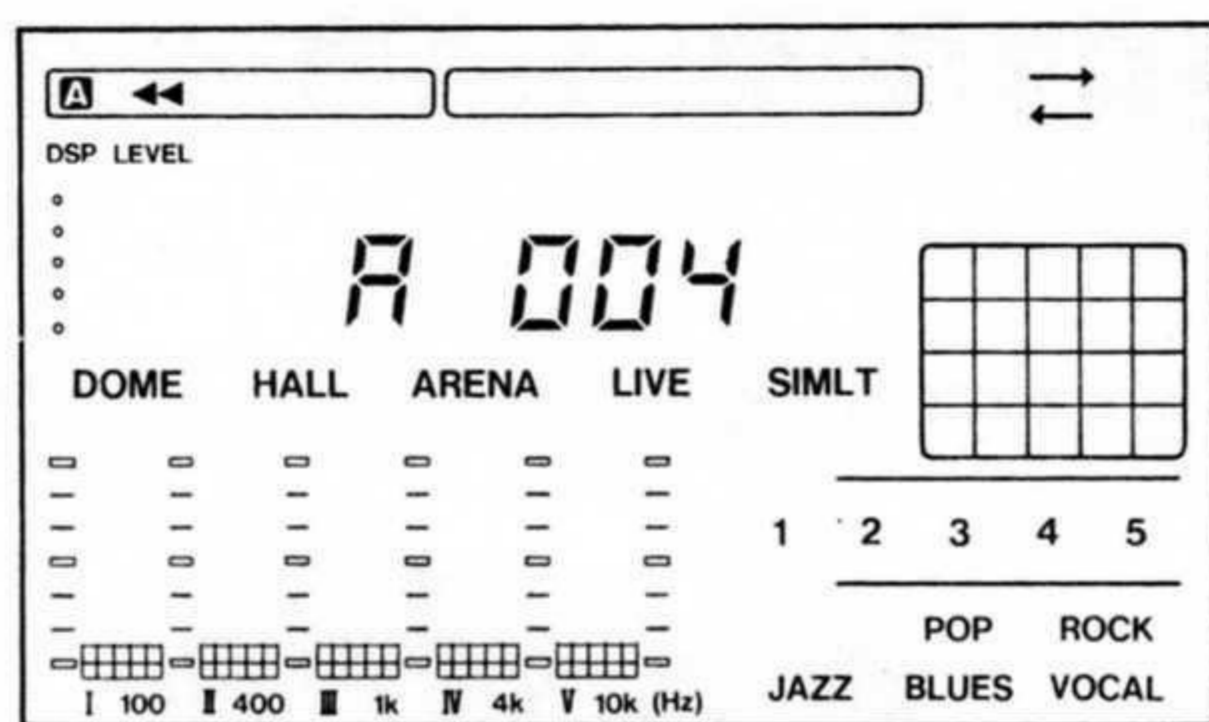
上面から聞くには



早送り・早戻しをするには次のボタンを押してください。

	早送り	早戻し
上面	▶▶	◀◀
反対面	◀◀	▶▶

早送り・早戻し中は◀◀または▶▶の表示が出ます。



### テープ操作ボタンについて

テープ操作ボタンは、デッキAとデッキBが兼用になっています。

カセットを入れたときに操作できるデッキが自動的に切り換わります。

デッキの状態	ディスプレイ表示/テープ操作ボタン
カセットが入っていない	なし
片方にカセットがある	カセットのある方
両方にカセットがある	後からカセットを入れた方

両デッキにカセットがあるときは、使用したいデッキをDECK A/B切り換えボタンで選んでください。

ドルビーB NR録音されているカセットを聞くときは

DOLBY NRスイッチをONにします。ドルビーB NR録音されていないカセットでは必ずOFFにしておいてください。

デッキAとデッキBを同時に再生させると

両方動きますが、デッキBのテープの音だけが聞こえます。

テープ走行モードを選ぶには

DIR MODEボタンを押して切り換えます。

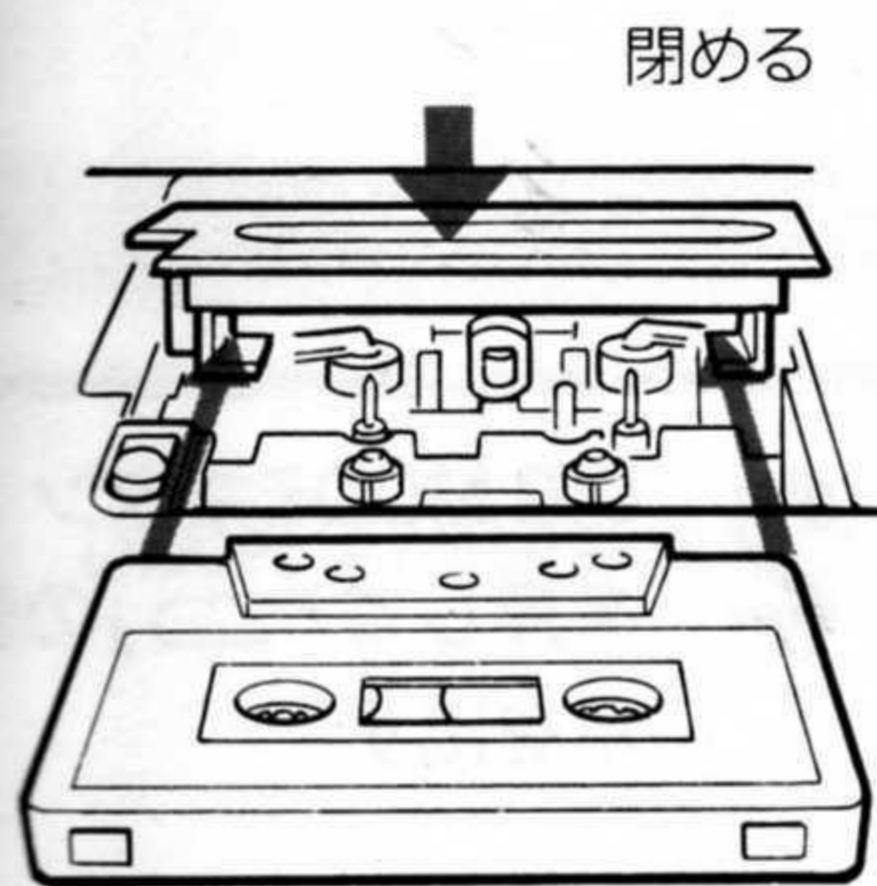
	ディスプレイ表示
片面だけを聞くとき	▶▶
上面から反対面を続けて聞くとき	▶▶◀◀ RELAY*
両面を何回も繰り返し聞くとき	◀◀▶▶

\*両デッキにカセットが入っているときはリレー再生になります。リレー再生については34ページを参照してください。

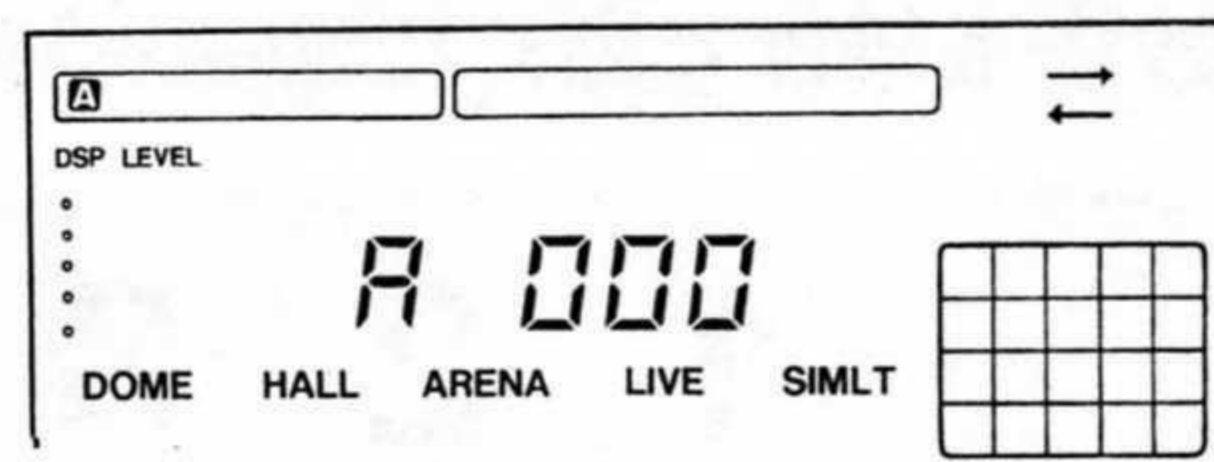
### テープカウンターについて

- ・本機のカウンターは表示窓の □ (◀▶) 1回転で1カウント上がります。
- ・反対面(◀)再生、録音中はカウンターの数字の動きが逆になります。
- ・録音前にテープカウンターの数字をメモしておいたり、COUNTER RESETボタンでリセットしておくと、後から頭出しをするのに便利です。

付属のリモコンを使って操作することもできます。

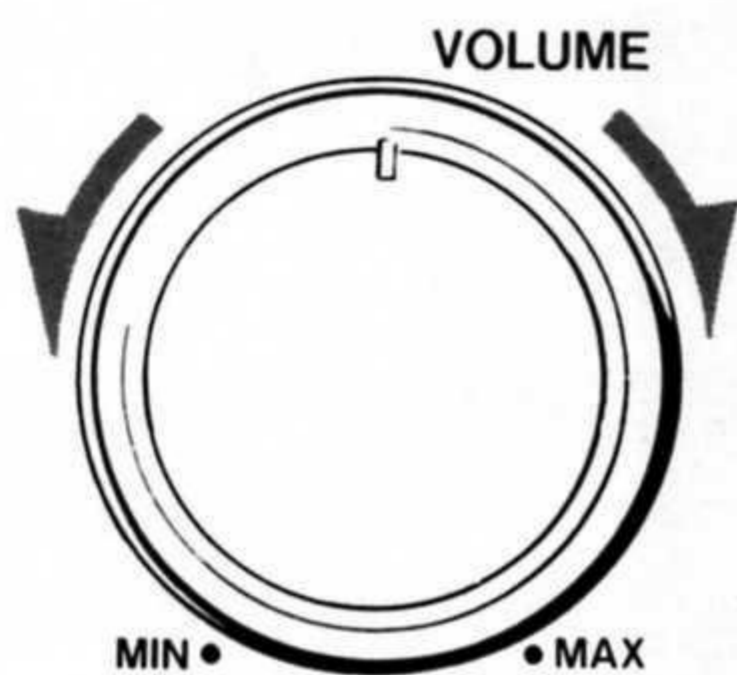


### 3 DECK A/B切り換えボタンを押して、表示窓に使用デッキの表示を出します。



片方のデッキのみにカセットが入っている場合はボタンを押す必要はありません。

### 6 音量を調節する



#### 止めるには

DECK A/B切り換えボタンでいま聞いているデッキに切り換えて、□ボタンを押します。●/II ボタンで再生の一時停止はできません。

#### カセットを取り出すときは

カセットの入っているデッキのEJECTレバーを手前に引きます。

#### 聞き終わったら

POWERボタンを押して電源を切ってください。

反対面から聞くには



TAPEランプが点灯します。

#### エーティエス オートマッチック テープ セレクター ATS (Automatic Tape Selector)

ATS (テープ自動切り換え) 機能で自動選択されて使えるテープは、TYPE I、II、IVのみです。カセットの検出孔により、テープの種類が自動的に判別され、特性にあった最適なイコライザー値に調整されます。

#### 使用可能なテープ

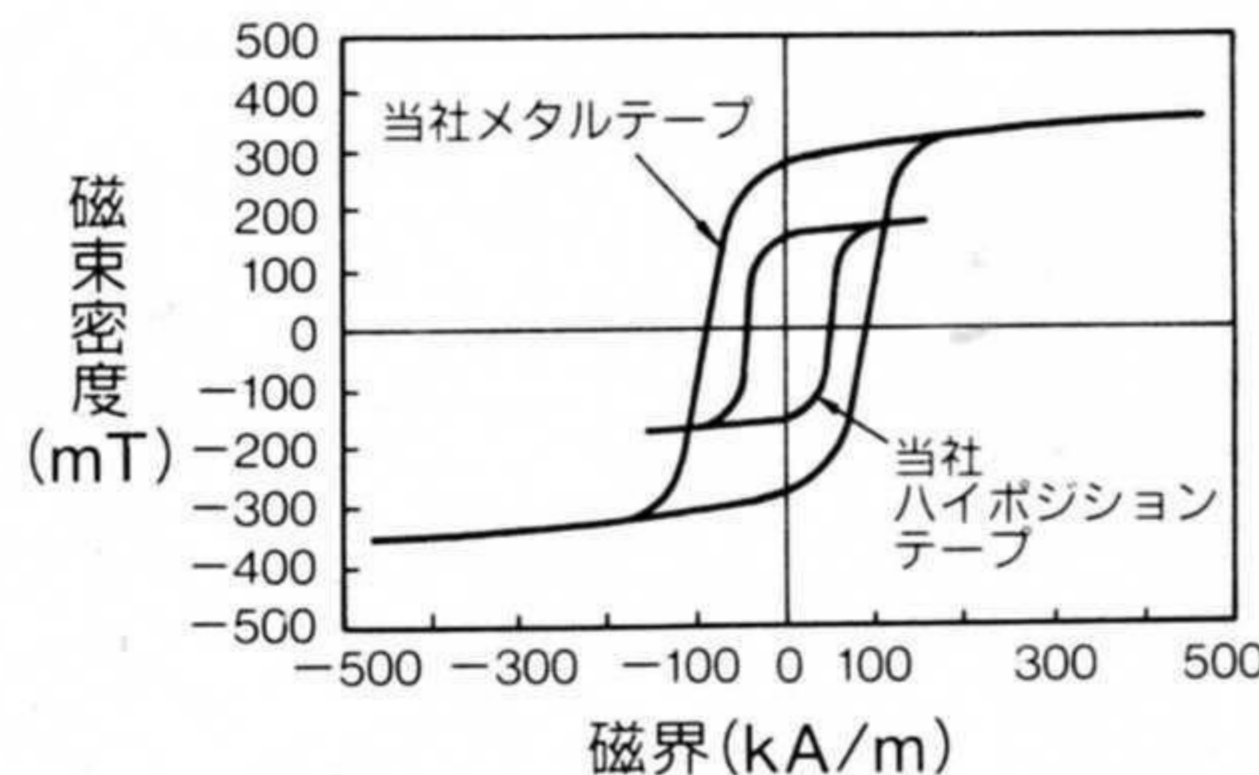
テープの種類	再生	録音
TYPE I (ノーマル)	○	○
TYPE II (クローム)	○	○
TYPE IV (メタル)	○	○

#### メタルテープミニ講座

#### CDにいちばん近い音\*、それがメタルポジション。

本機はメタルテープの録音/再生が可能です。ここでそのメタルテープの特長について簡単に説明してみましよう。メタルテープ最大の魅力は、その強力な磁気エネルギーです。ハイポジションとくらべて約3倍 (当社ハイポジション比)、ノーマルポジションとくらべて約4倍 (当社ノーマルポジション比) もの磁気エネルギーを誇るメタルテープは、CDの持つ莫大な音楽情報を余すところなく捉えます。その結果、豊かでしまりのある中低音から、つややかで伸びのある高音まで鮮明に再現し、あらゆる音楽の感動をストレートに伝えます。ご使用にあたっては、ソニーのメタルテープ MetalXRをおすすめします。

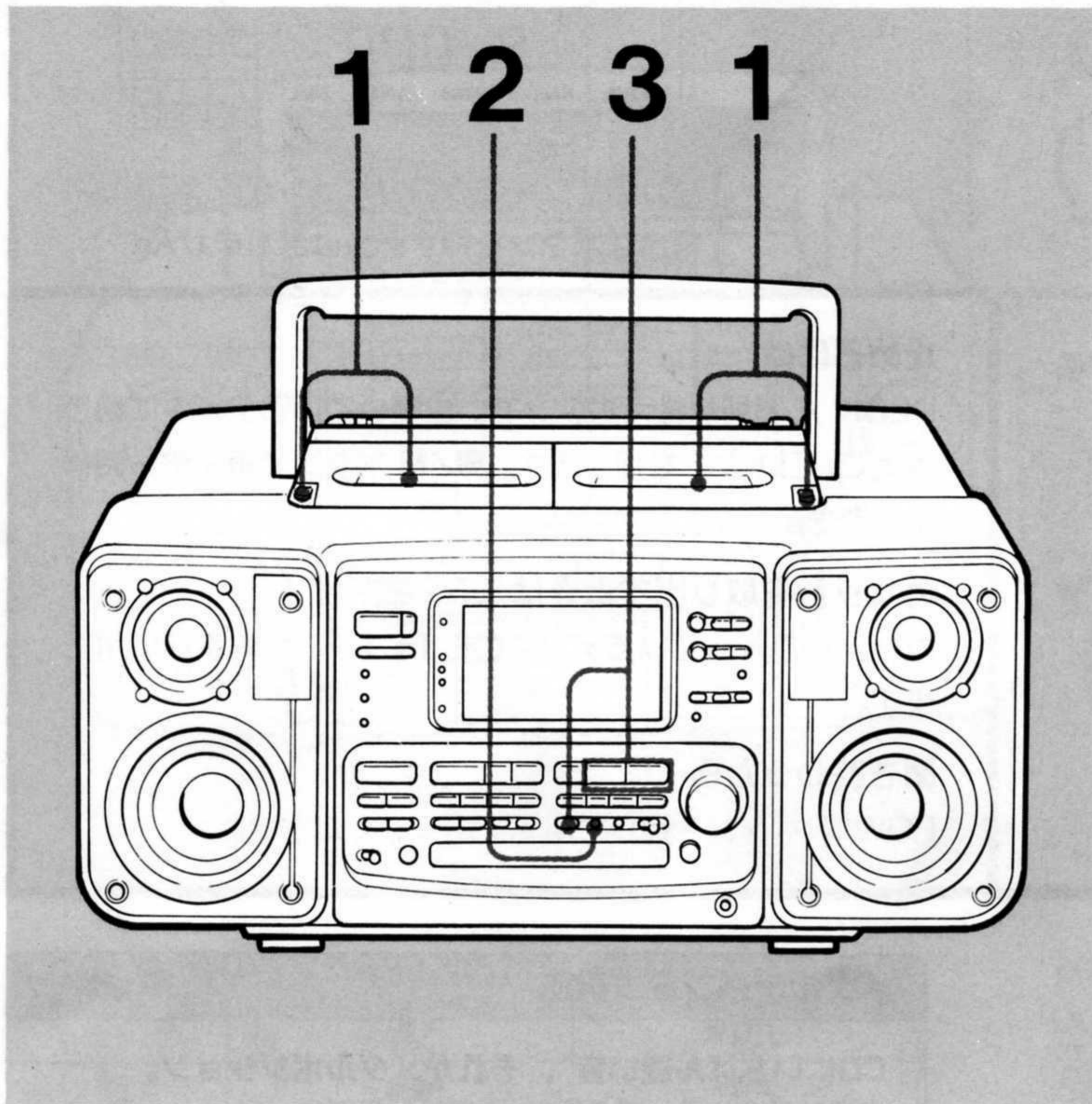
ヒステリシスカーブ




(\*オーディオ・アナログカセットの中で、M. O. Lの高さ、ダイナミックレンジの広さにおいて)

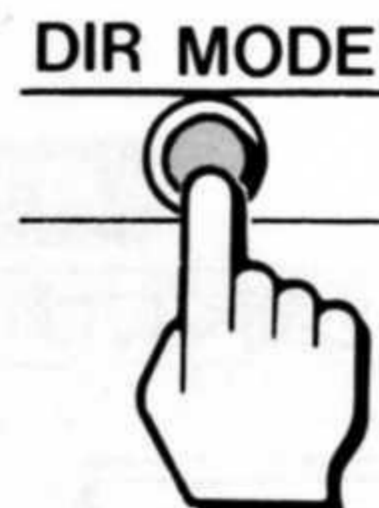
テープを聞くには

両デッキを続けて聞くには——リレー再生(デッキAからデッキBのみです。)

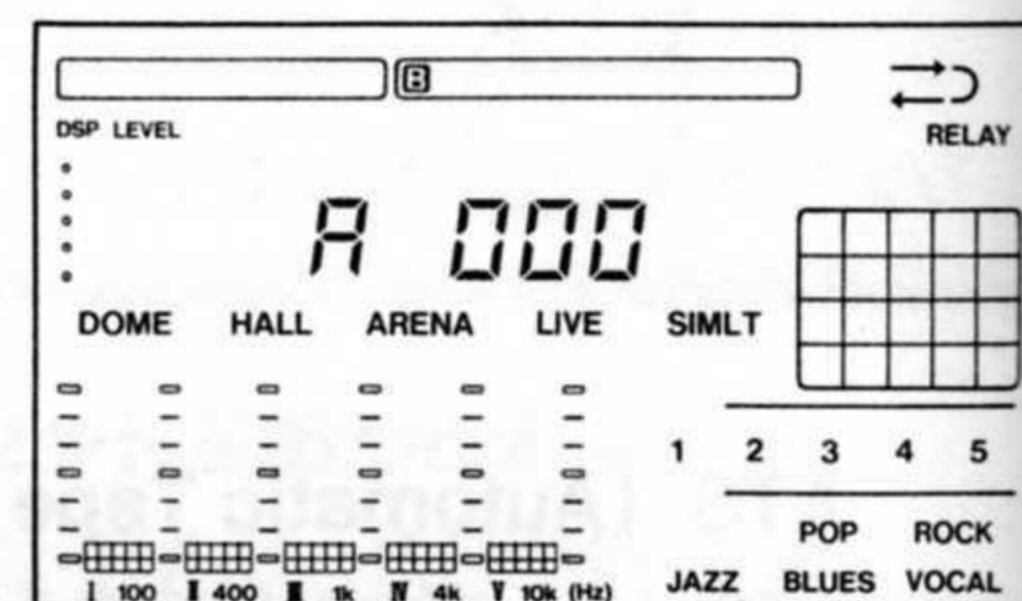


**1** 両方のデッキに  
カセットを入れる

**2** DIR MODEボタン  
を押して「」の表  
示を出す



「RELAY」の表示が出ます。



曲の頭出しをするには——AMS\* (リモコンで操作することもできます。)

テープの再生中、次のボタンを押してください。  
曲の初めまで、早送りまたは早戻しされ、自動的に再生が始ま  
ります。

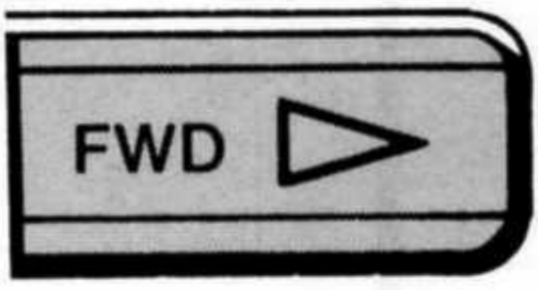
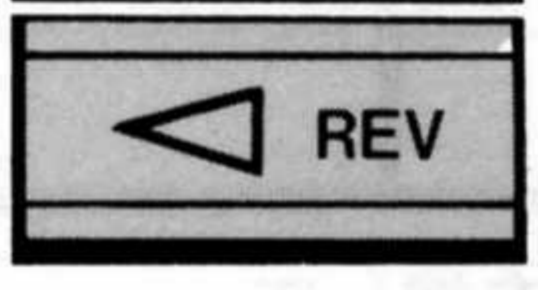
	上面再生中 ▶	反対面再生中 ◀
次の曲の初めから 聞くには	▶▶	◀◀
今聞いている曲の 初めから聞くには	◀◀	▶▶

AMSについてのご注意

- ・ AMS用のテープをつくるには、録音するときREC MUTE ボタンを押して、4秒以上の無音部分をつくることをおすすめします。(39ページ参照)
- ・ ピアニシモのように非常に小さい音の部分が何秒か続くと、AMSが働いて曲の途中で再生が始まってしまうことがあります。
- ・ 無音部分からAMSを始めると、正常に頭出しができません。
- ・ AMS中にFUNCTION切り換えボタンを押すと、デッキが止まります。
- ・ AMSを使う場合には、もう一方のデッキを止めておくことをおすすめします。もう一方のデッキが動作しているときは、AMSが正常に働かないことがあります。

\* AMS : Automatic Music Sensorの略。曲と曲との間の無音部分(ブランク)を検出することによって、再生の早送りや早戻し中に曲の頭を探す機能です。

### 3 DECK A/B切り換えボタンでデッキAを選び、再生ボタンを押す

押すボタン	再生の順序	
	デッキA 上面→反対面	デッキB 上面→反対面
	デッキA 反対面→上面	デッキB 反対面→上面

デッキBの反対面まで再生されると、再生は停止し、繰り返されません。

#### リレー再生を止めるには

DECK A/B切り換えボタンで今聞いているデッキを選び、□ボタンを押します。

テープを聞くには